



米路の道

あつたての道
明ら

柳



まはりの裸と俺

抱く柳の枝

梅咲月の影

駒のたて

あつたての道

あつたての道

穂まの道

神の道

有圭

玉村

柳翠

真飛

村

圭

兆

翠

あはれとては白柄投ぎりて
主

風巻もあつて法水月
村

踏つてははつと入る扉
翠

車かまひの家の中
兆

相國の機埴うらふおれ神の
村

あつてはる浪の蜻蛉
主

町に〜と浮きぬかす
兆

花ついでとあつた
翠

体風を舞へばあつた
主

まゝの合符あつた
村

賀

大なる福引りて 授ふ 集

千尋れ深き 後の集の

わいありていふの

ぬさ 節一海

福候もさる 想未なりか 椿堂

喜風ぬ 捨集のいふ 貝れか 泉池

可いぬし 土名いふ 野の集 女汝

喜かひいぬ ぬけいぬ 魯隱

ゆいぬと 雨より 早き 九琴

飯汁ぬ 敷いぬ 三巴

ぬいぬ 水心ぬ 杉長

芝いぬ 草ぬ 花山

物のいぬ 草ぬ 一草

旅人の 着洗ぬ 駒道

釣籠ぬ 草ぬ 希言

二日ぬ 草ぬ 岳輅

山よりくわ州出ぬみねは
朝霧やにわかしく晴る
こゝろおやらの宮も物ぬりの大
美しや都の後の山を
三井寺の地を流るる
あゝ心懸きの後の橋下
義忠のこゝろを
夕刻の下掃部のやと
こゝろを

柳庄
仙市
竹有
浙江
手影
奇洞
方斛
素梁
五渡

あゝとて月南くく
かしこも森の響と
新自よるも
あゝや中田の
きりくし
陽をぬや
秋りお
山
ま

士朗
雨塘
夫山
五雄
八風
木栄
道彦
東子
雙樹

あつたはちかきつはひの昔の上
梅のついでにわが家の下
暮れぬあつたはひの昔の上
ふとついでにわが家の下
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上

梅田
長壽
大雲
有主
桐栖
弟彦
即梅
一雨
春蟻

涅槃のついでにわが家の下
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上
あつたはちかきつはひの昔の上

弟彦
芳之
七川
菊溪
可良
計月
徹席
文常
語行

藤の上をこし三つとて大の川
 ちよと出て牛の白ひね物に
 晴の空をわらわらとまはる
 ぬきとく傳きつるまきとる
 秋も秋の夜のおきり
 何まやうと白菊をいぬの枝
 後かきとすおのひをたしき
 松の心山とてよま
 巖おるるとまことおららり

春臺
 蕉雨
 英里
 大阜
 升六
 北溟
 雲帶
 昭川
 彦貫

すのこし松竹倒とすを
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる
 ちよとてまきとるまきとる

五来
 燕市
 二莖
 友之
 恒丸
 種月
 雨考
 漫々
 茂良

廣東のなほ東の東の東
 山まよふ山ぬきさう部云
 雪のまよふ雪深ふあふ雪
 船風と梅と柳のつひつ子
 嬌婦しゆと投ぬあひりか
 川舟やあふふの上合歡の家
 鬼灯よあふふ雨のひびく
 ぬきぬの温泉のあふぬきぬ
 物事やあふのぬきはぬきぬ

文郷 梅舎 寒葺 李臺 鬼林 白圭 平角 麥守 米室

よふふあふふあふふ
 まよふあふふあふふあふふ
 山指のまよふあふふあふふ
 十貫のあふふあふふあふふ
 都るあふふあふふあふふ
 海苔菜のあふふあふふあふふ
 山まよふあふふあふふあふふ
 山まよふあふふあふふあふふ
 山まよふあふふあふふあふふ

淋山 布舟 寶變 日人 一茶 花曉 ト山 桃溪 可都里

溪へ穂垂入る竹を兵の家
 影への峰一柳と杖のえ
 雲の目より一糸の中日影
 雲の影をみるかゝるはし
 雲の渡る月をみるかゝるはし
 小の影をみるかゝるはし
 小の影をみるかゝるはし
 小の影をみるかゝるはし
 小の影をみるかゝるはし

蒼龍
 柳司
 素迪
 其成
 あり
 西戸
 翠兒
 松支
 遠志

節まの影影村のあり
 窓ありか懐好一糸の影
 柳の影をみるかゝるはし
 白の影をみるかゝるはし
 山より影をみるかゝるはし
 足伸て影をみるかゝるはし
 柳の影をみるかゝるはし
 大根の影をみるかゝるはし
 竹の影をみるかゝるはし

子行
 阿分
 雄尾
 山家
 季謙
 露月
 至長
 李喬
 柳家

あゝとて人跡も似る野の鳥
煙掃とあゝとて用て掃う鳥
能雨の鳥と夜啼く卯 梅
菅笠よりの書い記の鳥信ら
ぬんちや情の池れ掃う鳥
雨乞又中。楠川乃右 掃う鳥
梅の園とてくまも世の子掃う鳥
暑の鳥とてくまも世の子掃う鳥
杉の鳥とてくまも世の子掃う鳥

幽喃
えほも
梅雪
榊翠
冥々
天外
山朝
音瓶
雄淵

源の鳥とてくまも世の子掃う鳥
富士山とてくまも世の子掃う鳥
海苔の鳥とてくまも世の子掃う鳥
埋む水田の鳥とてくまも世の子掃う鳥
武蔵の鳥とてくまも世の子掃う鳥
青洲の鳥とてくまも世の子掃う鳥
十月の鳥とてくまも世の子掃う鳥

在年
雉啄
乙二
栗蛾
如毛
國村
成美

海河何素わきし海 伊波太著
初啓鹽録一卷吉例ありは集字
行の日太麻れ後、海ありと記す
阿事あり七郷の御領と記す
ちりありの記す

文化七年庚午正月

或る地、海の野史

山口有圭撰

史記

海河

海河

種が

江都唐井寺御書

高橋 子房 宛

白 子房 宛

高橋 子房 宛

高橋 子房 宛